

■ 概況

3/2~3/8のNYMEX・WTI先物市場は76.66~80.46ドルの範囲で推移した。

3月9日は、米国の利上げ継続観測に伴う景気後退警戒感の高まりから、3日続落した。株式市場の低迷も値下がり要因となったが、フランスにおける年金改革反対ストライキが石油業界にも波及し供給懸念が発生した。4月限終値は前日比0.94ドル安の75.72ドル。

週末10日は、米国雇用統計の数字が予想に比し低調であったことから、利上げ継続の警戒感が後退し、4日ぶりに反発した。この日、サウジとイランが中国の仲介で、両国外交関係の正常化で合意したとの発表があり、湾岸地域の緊張緩和要因となったが、市場への影響は限定的だった模様。4月限終値は前日比0.96ドル高の76.68ドル。

週明け13日は、米国シリコンバレー銀行の経営破綻で、投資家のリスク回避ムードが広がり、反落した。ただ、為替市場のドル安進行による原油先物の割安感、利上げ方針の見直し期待から、一部には買いの動きもあった。4月限終値は前日比1.88ドル安の74.80ドル。

14日は、相次ぐ米国の銀行破綻で、リスク回避姿勢が一段と高まり、大幅に続落、昨年12月9日以来この日発表のOPEC月報は、今年中国の石油需要見通しを上方修正したが、欧米は下方修正、世界全体の石油需要では据え置いた。4月限終値は前日比3.47ドル安の71.33ドル。

15日は、米銀2行に続くクレディスイスの経営不安で、金融システム不安が拡大し、大幅に続落、節目の70ドルを割り込み2021年12月以来の1年3か月ぶりの安値を記録した。ま

た、米国の前週末の原油在庫は市場予想を上回る積み増し発表があった。なお、この日発表の国際エネルギー機関(IEA)月報は、2023年世界石油需要見通しを上昇修正したが、市場への影響は限定的であった模様。4月限終値は前営業日比3.72ドル安の67.61ドル。

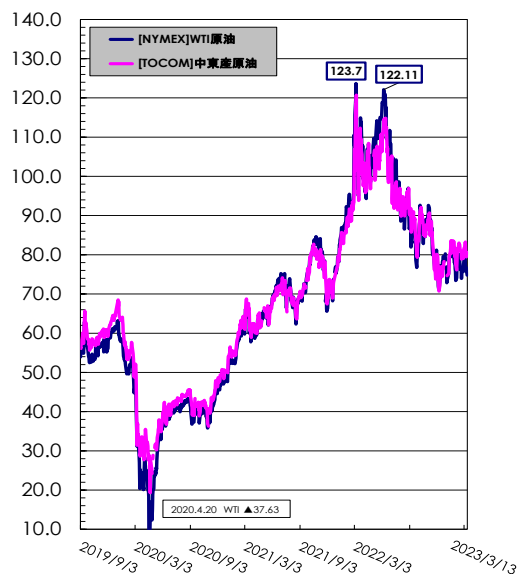
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、3月2日~8日の間、81.80~84.80ドルの範囲で推移した。3月9日81.60ドル、10日80.10ドル、13日82.10ドル、14日79.00ドル、15日77.50ドルで推移した。

為替は、3月2日~8日の間、135.92~137.35円の範囲で推移した。3月9日137.10円、10日136.01円、13日134.34円、14日133.21円、15日134.62円で推移した。

そのような中で、3月13日時点の価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油も横ばい、灯油は同2円の値下がり(18リットルベース)であった。ガソリン4週連続の横ばい、軽油は2週ぶりに値上がり止まり、灯油は2週ぶりに値下がりした。ガソリンの全国平均価格は167.4円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は17.1円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/5 ~ 3/11	2,846 ▼ -81	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.8 ▼ -2.2	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/11	11,122 ▲ 591	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/13	80.60 ▼ -1.59	▼ -22.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/13	74.80 ▼ -5.66	▼ -28.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月中旬	87.80 ▲ 0.84	▲ 1.05
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	71,789 ▲ 1,077	▲ 9,129
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	129.98 ▼ -0.70	▼ -15.15
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/13	135.34 ▲ 1.58	▼ -16.73

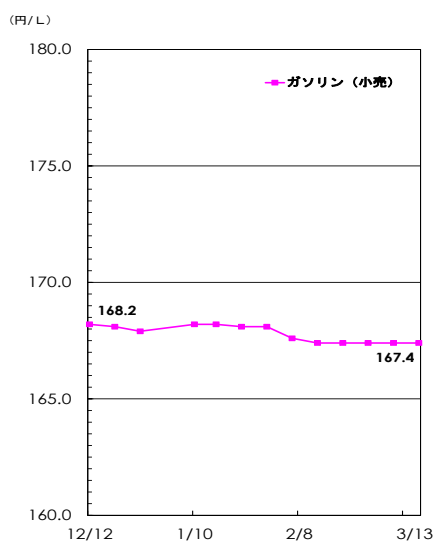
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/5 ~ 3/11	889 ▼ -23	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	783 ▼ -53	▲ -	
	輸出	"	82 ▼ -38	▼ -	
	在庫	3/11	1,671 ▲ 24	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/7 ~ 3/13	73.4 ▲ 0.8	▼ -8.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/7 ~ 3/13	73.0 ➡ 0.0	▼ -14.2
		(TOCOM/中部)	3/13	73.6 ➡ 0.0	▼ -11.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/13	167.4 ➡ 0.0	▼ -7.8	

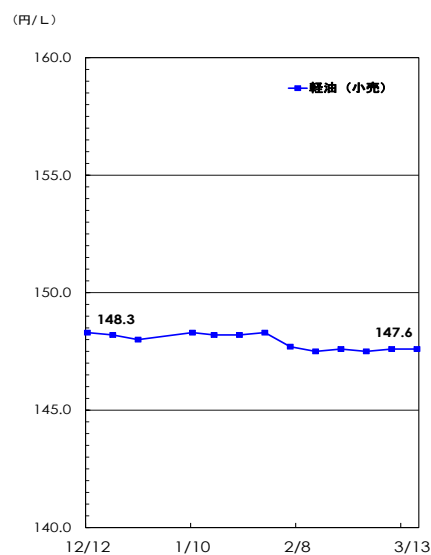
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

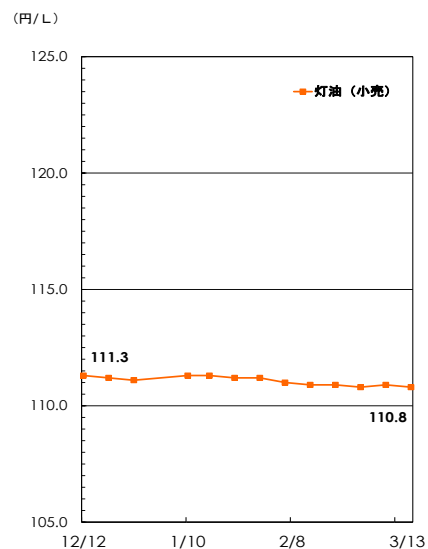
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/5 ~ 3/11	722 ▼ -48	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	655 ▲ 4	▼ -	
	輸出	"	45 ▼ -127	▼ -	
	在庫	3/11	1,206 ▲ 21	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/7 ~ 3/13	75.0 ▲ 0.4	▼ -8.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/7 ~ 3/13	77.1 ▲ 0.7	▼ -14.7
		(TOCOM/中部)	3/13	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/13	147.6 ➡ 0.0	▼ -7.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/5 ~ 3/11	231 ▼ -60	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	286 ▼ -116	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	3/11	1,173 ▼ -54	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/7 ~ 3/13	75.5 ▲ 0.2	▼ -7.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/7 ~ 3/13	75.0 ➡ 0.0	▼ -11.2
		(TOCOM/中部)	3/13	76.3 ➡ 0.0	▼ -5.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/13	110.8 ▼ -0.1	▼ -4.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(3月9日~15日)のWTI石油先物市場は、9日の75.72ドルで始まり、中国経済の回復期待を中心に、週末10日まで続伸、76.68ドルを付けたが、週明け13日からは金融不安の発生で3日続落、節目の70ドルを割り、3月15日の67.61ドルで終わった。

3月15日発表の10日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比160万バレル増と、市場予想(120万バレル増)を上回る積み増しとなった。

EIAによると、3月13日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比6.7セント値上りの1ガロン3.456ドル(123.4円/%)と

2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.5セント値下りの1ガロン4.247ドル(151.7円/%)と6週連続の値下がりであった。

ペーカーヒューズ社によると、3月10日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比2基減の590基と4週連続で減少した。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年3月5日~3月11日に休止したトッパー能力は22.7万バレル/日で、前週に対して12.2万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は284.6万klと、前週に比べ8.1万kl減少。前年に対しては23.7万klの減少。トッパー稼働率は76.8%と前週に対して2.2ポイントの減少、前年に対しては3.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.5%減、ジェット/48.9%増、灯油/20.6%減、軽油/6.2%減、A重油/10.1%増、C重油/10.6%増。今週のC重油の輸入は4.8万kl(前週比4.1万kl減)。軽油の輸出は4.5万kl(前週比12.7万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて、ジェット、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、ジェット、C重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は78.3万kl(対前週6.3%減)と2週連続で減少した。ジェット13.9万kl(対前週213.6%増)、灯油28.6万kl(対前週

29.0%減)、軽油65.5万kl(対前週0.6%増)、A重油20.1万kl(対前週22.7%減)、C重油31.8万kl(対前週72.3%増)。

(単位:千kl)

	今週 (3/5 ~ 3/11)	前週 (2/26 ~ 3/4)	前週比
ガソリン	783	836	▼ -53 (-6%)
ジェット燃料	139	44	▲ 95 (216%)
灯油	286	402	▼ -116 (-29%)
軽油	655	651	▲ 4 (1%)
A重油	201	260	▼ -59 (-23%)
C重油	318	185	▲ 133 (72%)
合計	2,382	2,378	▲ 4 (0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月11日時点の在庫はガソリン、軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、軽油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは167.1万kl、前週差2.4万kl増。前年に対しては2.5万kl多い。

灯油は117.3万kl、前週差5.4万kl減。前年に対しては5.7万kl多い。

軽油は120.6万kl、前週差2.1万kl増。前年に対しては3.9万kl少ない。

A重油は68.2万kl、前週差2.3万kl増。前年に対しては1.3万kl多い。

C重油は174.7万kl、前週差4.0万kl減。前年に対しては19.6万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (3/11)	前週 (3/4)	前週比
ガソリン	1,671	1,647	▲ 24 (1%)
ジェット燃料	688	745	▼ -57 (-8%)
灯油	1,173	1,227	▼ -54 (-4%)
軽油	1,206	1,185	▲ 21 (2%)
A重油	682	659	▲ 23 (3%)
C重油	1,747	1,787	▼ -40 (-2%)
合計	7,167	7,250	▼ -83 (-1.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月7日～3月13日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートの円高で、元売会社の円建て原油コストは、0.5円値下がりしたものと見られる。

上げとなった模様。

上記コストダウンに先週の補助金額18.1円を加えたコスト上昇額17.6円に、今週も補助金17.1円が支給されることから、3/16～3/22の元売会社の実質的な卸価格は0.5円の値

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月7日～13日の製品スポット市況は、2月28日～3月6日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除き、他の取引・油種で値上がりした。

直近週(3/7～3/13)の陸上スポット価格平均値は、前週(2/28～3/6)比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油も0.2円の値上がり、軽油も0.4円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(3/7～3/13)に、前週(2/28～3/6)比で、ガソリンは0.9円の値上がり、灯油も0.1円の値上がり、軽油も1.1円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.7円の値上がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]		今週 (3/7～3/13)	前週 (2/28～3/6)	前週比
スポット価格	レギュラー	73.4	72.6	▲ 0.8
	灯油	75.5	75.3	▲ 0.2
	軽油	75.0	74.6	▲ 0.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]		今週 (3/7～3/13)	前週 (2/28～3/6)	前週比
先物価格	レギュラー	73.0	73.0	▶ 0.0
	灯油	75.0	75.0	▶ 0.0
	軽油	77.1	76.4	▲ 0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/7～3/13実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.8	▶ 0.0	▲ 0.4
灯油	▲ 0.2	▶ 0.0	▲ 0.1
軽油	▲ 0.4	▲ 0.7	▲ 0.6
A重油	▲ 0.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの167.4円、軽油も横ばいの147.6円、灯油は18%ベースで2円安の1,995円(1%ベースでは0.1円安の110.8円)。ガソリンは4週連続の横ばい、軽油は2週ぶりに値上がり止まり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。

最も値上がりしたのは愛知県(前週比2.0円高)、横ばいは高知県等5県、最も値下がりしたのは和歌山県(同1.2円安)だった。

次回調査時(3/20)のガソリンの小売価格は、横ばいなし小幅な値動きが予想される。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは18都府県、横ばいは5県、値下がり24道府県だった。全国最安値は徳島県の159.8円、その次は宮城県の160.2円であった。他方、最高値は長崎県の180.3円だった。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (3/13)	前週 (3/6)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	167.4	167.4	▶ 0.0	08/8/4 185.1
	灯油	110.8	110.9	▼ -0.1	08/8/11 132.1
	軽油	147.6	147.6	▶ 0.0	08/8/4 167.4

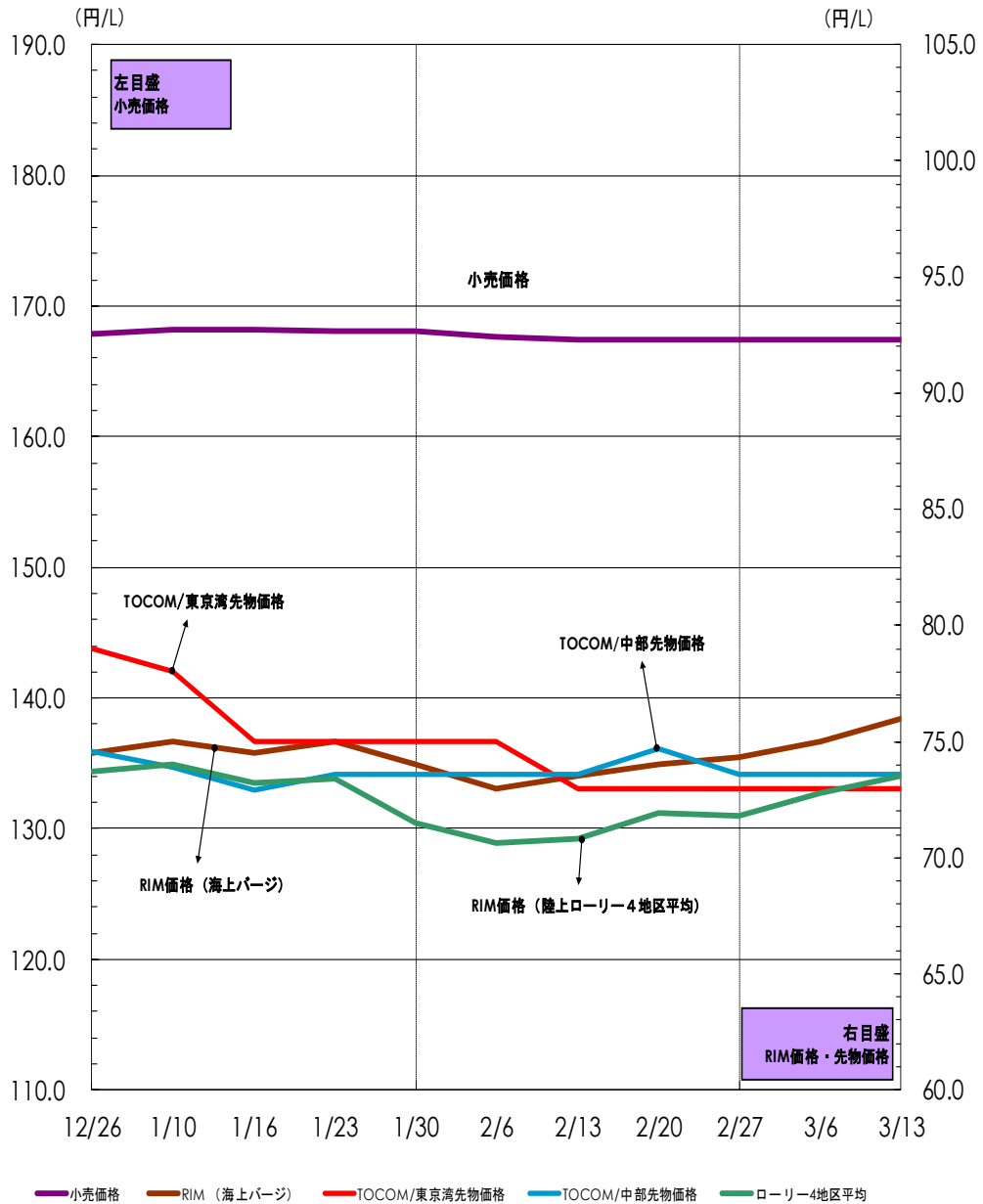
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/12/26 ~ 2023/3/13)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2022第49号) の公表は、3/24 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。